

城取博幸の

韓国 仁川のスーパーマーケット見聞録

NO65

城取フードサービス研究所

城取 博幸

韓国 仁川にいます

今回はANAを使い、羽田～金浦～仁川に行く

金浦～仁川は電車で移動するつもりだ

朝8時50分のフライトだが、羽田であるため時間的に余裕がある。

ANAのラウンジで朝食

黒焼きそばといなり、巻寿司とおにぎり、スープをいただく。

後で気づいたことだが、「ビーフカレー」もあった。

JALとANAの「カレー対決」をと思ったが、お腹がいっぱいであるため、次回にすることにする。



いつもの行先表示版の写真を撮り忘れてしまった

2時間ほどのフライトであるため、今回は「艶歌、歌謡 日本のふるさと」をうとうとしながら聞く



青春時代に聞いた太田博美の「木綿のハンカチーフ」も「日本のふるさと」になってしまった。

どうでもいいことだが、ふと気づいたこと

英語の場合、最後に「S」を付ければ複数形になる。

これはパターン化している。

しかし、「HANDKERCHIEF」など「F」で終わる名詞の多くは、

「S」がつくのではなく、最後の「F」が取れて「VES」になると受験英語で習った。

「厚切りジェイソン風」に言えば、

「WHY AMERICAN PEOPLE! 」と言いたいところ。

前はそう教わったが、よく調べてみると、そのまま「S」を付けてもいいと書かれている。

まあどうでもいいことですが…

機内食

「鮭フレークごはん」と「ぶっかけうどん」

鮭ごはんは、コンビニの物に近い、うどんは麺同士がくっついておらず、はがれやすくなったことが進化している。



今回、読もうと思っている本

今年は終戦 70 年

「正しい歴史認識」のためにも、歴史は勉強しておかなくてはならない。

韓国はかつて、日本の「保護国」「植民地」であった。

その時代の歴史的建物がまだ「仁川市内」に残っているため、そこを訪れたいと思っている



金浦空港に到着

目の前には「ロッテホテル」と「ロッテショッピングセンター」

30 年前の金浦空港は、外に出ると、マシンガンを持った軍人がいて写真は厳禁であった。

上空からの韓国国内の撮影も禁止であった。

ずいぶん平和になったなと思う。



電車に乗って仁川空港駅まで移動
乗車時間は 40 分程



仁川空港駅に到着
近代的なきれいな駅だ

宿は「Eマート」の隣のサービス・アパートメント
奥に見えるのが宿だ



建物は立派だが古そうだ

このアパートメントは、かつて訪れた「南京」のスタイルと同じ
マンションの部屋の一室を事務所にして、部屋を貸し出すというもの。
事務所は閉まっています誰もいない。
よくあること



しばらく待って部屋の鍵をもらう
中はワンルームマンションだ

キッチンが付いているが、調理器具や食器がない
仕方ないから買うしかない



韓国の景気は、思っている以上に悪いようだ

そうした中、スーパーマーケットはどう変化しているのか

ここの「Eマート」は、過去に2回見ている。

空港近くで周辺人口も少なく、訪れるのは観光客が土産を買うくらいで。

それでも、店は存在していた。

利益をどう出しているのか興味が湧いてきた。

繁盛店ばかりを見ても勉強にはならない。

日本は人口が減っている国。

特に、地方のSMは厳しい。

その答えがここにあるかもしれない。

数日かけて、店と商品を徹底調査するつもりだ。

仁川空港近くの「Eマート」①

仁川空港からフリーリムジンバスに乗って1つ目で降りれば「Eマート」があります。

ハイアットホテルのすぐ隣のビルの地下です。

他にはこれといった大型量販店はないため、お土産などを買う観光客がよく訪れています。

しかし、1階のテナントは全滅状態



「Eマート」が出てしまえば、このビルは廃墟

周りはホテル街

発展を見越して建てられたようだが、過去2回視察しているが、発展はない

韓国の食品の消費支出は2002年をピークに下降し続けている。

大統領が代わってから、市場などの弱小業者を保護するために、大型店は毎週ではないようだが、日曜日は休業するなどの措置が取られた。

そうした中でどのように営業を続けているか興味があった。

化粧品や雑貨などの非食品売場から入り、その奥が450坪ほどの食品売場だ。

くだもの、野菜、魚、肉、惣菜、パンの順にレイアウトされている。

くだもの売場では、いちごのいい匂いがし、梨の試食が出ていた。



第2マグネットは鮮魚売場

午後3時であるが、これだけの陳列量

ムリして売場を作っていない。

その手前には、冷凍平ケース3台設置。これはぎっしりと商品が詰まっている。

魚売場と肉売場の間にも、冷凍ケースが設置されている。

よく見ると、壁面以外は冷蔵ケースがない。

魚売場の平ケースは全て冷凍



第3マグネットは、惣菜の揚げ物



大型パックのフライドチキンが並ぶ

「できたて」というよりは、「電子レンジで温めて」という感じである。

寿司は個々包装、弁当や丼らしきものはない。

角を曲がれば、右側が冷凍食品、左がチルド商品だ

中を覗いてみたが、なかなかおもしろいものもある。

何品か購入してみた。



チルドのレディ・ミールコーナー

スープ、鍋コーナーの品揃えは見事

日本の鍋スープコーナーのようだが、スープに具材が入っているのが日本と違う点。



オールアウトパック、オーリレーチンケースという選択もあるが、

「ウェット感」を出しつつよくやっていると感心する。

食品と非食品の売上比率はよくわからないが、よくやっていると思う。

他人ごとではない、日本は人口が減っている国。

地方では客数が激減し、こうした店が増えている。

青果売場で「この野菜セットは何に使うのか」と尋ねると、

「しゃぶしゃぶ用」と答える

「これは買うから、しゃぶしゃぶのタレはどこ？」と聞くと、食品売場まで案内してくれた。

どこを探しても「しゃぶしゃぶのタレ」はない。



肉売場で「モランボンのしゃぶしゃぶのタレ」を発見

日本からの輸入品だ



目の前の「韓国牛のスライス」も購入

ガス充填で1週間も賞味期限がある。



ついでに「鍋スープ」も2品購入



大切なことに気付く

調理器具がない。フライパンと箸、紙皿を購入

海外で、もし必要であれば、電子レンジも買う覚悟はある。



早速作ってみる

具入りの味噌味のスープを使う。「モランボンのタレ」は味の調整に使うことにした



まず野菜に火を通す



火が通ったら、牛肉を入れる
簡単な料理だ。

しゃぶしゃぶというより、味噌味の「すき焼き」の出来上り
牛肉は厚めのスライスで、噛みごたえはあるが、甘味のあるおいしい牛肉であった。
味噌味のスープもよい。
「これはありだな」と思わず間食。
ただ、青梗菜はすき焼きには合わない。

仁川空港近くの「Eマート」②

Eマート 2 回目の視察

E マートの営業時間は、午前 10 時～午後 20 時まで
開店 10 時、午後 3 時、夜 8 時と時間を変えて 3 回視察した

店の入り口に、EマートのPB商品である「PEACOCK」が展示されている。



開店時の品揃え(10 時～11 時まで視察)

青果売場は、ほぼ完成している。スタッフ 2 名
夜 8 時には、値引きがされている

魚売場は、三分の一程の品揃え スタッフ男性 1 名、女性 1 名
朝の作業は 12 尺ほどの平ケースを埋めるだけであるため、作業量自体はそれほど多くない。
夜の値引きはたいした量ではない



肉売場は、ほぼ完成 スタッフ男性 1 名、女性 1 名
朝は全てアウトパックであるため、売場に並べるだけ
バックヤードにはスライサーがない。

対面用の商品も「ガス充填」の大型トレーで納品され、トップシールをはがすだけ
うまく仕組みができています

夜は値引きがない



惣菜売場は、10 時半でも売場に商品が並んでいない。

個々の作業は「個々包装寿司」と「揚物」だけ

たぶんスタッフは 2 名

夜は個包装はパックに詰めてある



夕方からの「できたて販売」なのか

たぶん、値引きが多くなっているはずだ

女性スタッフが残って商品管理というより、値引き作業を行っているだけ。



インスタベーカリーも同様に、10時半でも売場在庫ゼロ
男性スタッフ1名で作業している
夜の値引きはまだない

各自作業スケジュールに従って作業していると思うが、
開店時作業は、日本のようにバタバタしていない
夜8時に店に行っても、まだスタッフが残っている。

朝のフロア部門は、非食品からの応援があるのか女性スタッフの数は多い。
レジは11時で1名
夜も商品の補充を行っているスタッフがいる

チルドのRTC商品、RTH商品、RTE商品のコーナーは全てPB商品。
これが、各社差別化商品になっている。



チルドスープとチルドおかゆ

トップシールの低温殺菌のようだ。

賞味期限は1か月以上

韓国名物の「アワビのおかゆ」はスライスされたアワビがたっぷり入っていて満足感がある。



マッシュルームスープもおいしかった
日本はもっとマッシュルームを使った方がいい

チルドサラダ

大型パックと個食タイプの品揃え

賞味期限はこれも一か月程、これもトップシールの低温殺菌

「ALMOND SWEET POTATO SALADA」は、さつまいもとじゃが芋のミックスサラダ

その上にスライスアーモンドをトッピング

大き目にカットされていて、ホクホクの食感がいい。



PB冷凍ピラフ

紙箱に入っている「レンジ・アップ商品」

照り焼きチキンは、鶏肉が少し硬いがピラフのご飯はパラパラで食感がいい

豚肉の角煮は、豚肉も柔らかく、冷凍の割にはなかなかの味であった。



チルド鍋スープ

韓国の場合は具が入っている



仁川の「ロッテ・マート」

仁川の「ロッテマート」と「ホームプラス」

仁川港の帰りのバスで「ロッテマート」と「ホームプラス」が並んでいる光景を見てしまった。

明日は、ソウル市内の博物館でも見学しようと思っていたが、

これを見てしまうと、黙ってられない。

ソウル行きを止めて、この2店舗を視察することにした

おかげで、3日間有効の、ソウル地下鉄、バスのり放題のトラベラーズチケット(4000円)は無駄になってしまった。



前日と同じく、1階の306のバスに乗る。

ドライバーに「ロッテマート」で降りしてくれとお願いする

ホームプラスの看板が見えてくる。

30分ほどで到着した

手前の、ホームプラスとロッテマートの両方にバスストップがあるため、どちらで降りてもよい。

帰りは反対側のバス停でのればよい

周りは高層ビルが林立する住宅地

まず、「ロッテマート」から視察



1フロアー2000坪ほどの「ハイパーマーケット」

ハイパーマーケット同士の戦いだ。

これはおもしろい

建物の古さからして、ホームプラスが後に出店したと思われる。

衣料品などの非食品売場を過ぎれば、食品売場だ。



青果売場

広々とした店内だが、客は少ない

新興住宅地であるため、夕方からお客が込み始めるのでは



「よもぎ」の量り売り

草餅(よもぎ餅)の季節



ナズナ、セリ、ノビルなども売られている
季節の野草であるが、日本のSMではあまり見かけない。

売場を見ると、けっこう「値引きシール」を見かける



肉は、ガス充填のアウトパック



対面では、ブロック肉を販売
韓国ではよくあるパターンだ

魚売場は、思ったほど広くなく、冷凍魚が多い印象



惣菜売場

2000坪の大型店の割には、「揚げ物売場」はこれだけのスペース
こんなもんでいいかもしれない



韓国で人気の揚げ物

ミンチされた平たいソーセージのようなものをフリッターで揚げ、3色のソースを虹状にかけたもの。
韓国カラーでよく目立つ
冷凍食品だが、なかなかうまくできている

チルド惣菜は、アウトパック中心
包装寿司はインスタア



レディ・ミールコーナー

2年前に比べてあまり進化していない。
むしろ、衰退している
それだけ、韓国は景気が悪い



一時ブームになった「ピザショップ」はスタッフが誰もいない

おもしろい商品を発見

「ゆず茶」は有名だが、同じように、実がスライスされた「グレープフルーツ」「オレンジ」「レモン」のはちみつ入りシロップ漬けが売られている。



冬はホットだが、春には、スパークリングウォーターで冷やして飲む提案もしている
これは日本でもいけそうだ

キムチのレトルトパウチを4品購入



次は、イギリス テスコと提携している「ホームプラス」を視察
どう戦っているか楽しみだ

仁川の「ホームプラス」

「ロッセマート」の隣の「ホームプラス」

ホームプラステスコの店の方が新しい。



青果売場は、売場も広く活気がある

青果売場の続きが「ミール・ソリューション売場」



こんなチルドのR T C商品お売られている

チルドの魚と冷凍魚の陳列ケース



チルドケースの「スキンパック」の切り身



冷凍ケースの「スキンパック」の切り身
霜が付きにくい包装形態である

インスタアベーカーリー



ホールセールのパン
陳列量から、日本ほどパンを食べる習慣がないようだ

ドライ商品

少量パック、均一価格商品のコーナー

tesco ホームプラスの特徴は、「ドライグロサリー」の品揃えがいいこと
低価格商品～tescoファイネストまで、ピンキリの品揃え



tesco PBのパスタ

惣菜売場のサラダ

賞味期限 1 か月以上

日本のように、トレーパックの商品はない。



サラダ



スープ、おかゆ

とんでもない商品を買ってしまった

急に刺身が食べたくなる。

ヒラメかカレイのような刺身があったので、チルドの真空パックを購入する。

ソース付で、値段は 1000 円もした。

「H A C C P」認証の工場で製造されているため、衛生管理も鮮度もよさそうだ。



真空パックで賞味期限は、10 日以上ある

こういうロングライフの「チルド刺身」もあると紹介したかつのもある。

アパートに帰り、ご飯を準備して、早速袋を開けてみる。

「今日は刺身だ」

開けてみると、とんでもない「アンモニア」の臭いがする。部屋中にその匂いが充満する。それも、半端ない、涙が出るようなアンモニアのにおいだ。思っていた刺身と全然違う。ホームプラスよ「いったい、なんていう商品売るんだ」と疑う。

しかし、袋は膨張していないし、色も悪くはない。パッケージには「H A C C P」マークも付いている。それでも、ワールド・フード テイスターとしては、くじけない。少し口の中に入れてみる、口がしびれるだけでなく、口の中いっぱい臭いが広がり、むせる。口から出し「やっぱり、これは腐っている」「鍋にしたら臭いが取れるかも」と添付のソースを水で薄めて加熱し、それを入れてみる。やはり強烈な臭いはとれない。

うまい！

コリコリして、ヒラメのエンガワを鍋にして食べているようだ。強烈な臭いはさらに強くなる。腐っているかもしれないと、吐き出す。「いったいなんだ、これは」臭いが取れないため、とりあえず冷凍庫に放り込む。

帰りの空港のラウンジ職員に写真を見せて聞いてみる。これは、「ホンオフエ」韓国料理のひとつらしい。朝鮮半島南部の料理で、エイの肉を壺等に入れて冷暗所に置き、10日ほど発酵させるとエイの持つ尿素などが加水分解されてアンモニアが発生し、ホンオフエが出来上がるようだ。話には聞いていて、いつか食べたいと思っていたが、食べたのは初めて。なにせ、納豆の16倍の臭い。この臭いで一晩中悩まされた。もしこの商品がそれだと知っていたら、これほど動揺しなかったであろう。長年の願望が叶った。いい経験をさせてもらった

台湾で有名な「臭豆腐」と「豆腐加工品」

偶然、台湾代表のこれも、強烈な臭いを発する「臭豆腐（丸状の物）」まで買っている。これも、アパートで開けたら、追加チャージを取られてしまう。何でも気になれば、カゴに入れてしまう悪い癖が出た。



ロッセマート、ホームプラスを視察して感じたこと。

客はホームプラスの方が入っている。

「ハイパーマーケット」の完成度としては、テスコ ホームプラスの方が上。

特に、商品開発、品揃え、陳列技術、販売方法においては、学ぶべき点が多い。

ドライ食品の品揃えがよいのが特徴。

ロッセマートは、デパート出身であるため、デパート色の強いハイパーマーケットである。

対面販売や、マネキンなどの人的サービスもよく行っている。

しかし、値引きの多さを見ると苦戦しているようだ。

時代に合わなくなっているような品揃え。

「情」のロッセマート、「理」のホームプラスといった印象だ。

韓国は景気があまりよくない。

景気が良ければ、デパートの品揃えが支持され、悪ければハイパーマーケットが支持される。

韓国は、少し前まで日本より景気が良かったが、ウォン高により景気に陰りが出ている。

日本が味わった、20年デフレに向かっているような気がする。

韓国はよく肉を食べる国

しかし、「明らかおデブ」は一人も見かけなかった。

それだけ、健康的な食生活をしている。

日本は欧米の食文化のマネをして、「肉」「乳製品」「パン」「穀物類」「スイーツ」を売り込んで、売上を伸ばしているが、決して健康的ではない。

韓国では「パン」「乳製品」「スイーツ」の売場はそれほど広くない。

韓国の食文化も学ぶ必要がある。

韓国では、「肉」「野菜」「米」「穀物」「野菜の発酵食品（キムチ）」中心の食文化

肉を健康的に食べるには、韓国料理の方が正解

以上、スーパーマーケット見聞録は終わり

韓国 開港の歴史

今年は、太平洋戦争終戦 70 年を迎えます

「歴史の正しい認識」が唱えられています

これを機会に歴史の勉強をしておいてはいかがでしょうか。

私のHPを見ていただければお分かりだと思いますが、「スーパーマーケット見聞録」だけでなく、各国を訪問して歴史の勉強もしています。

特に、「大航海時代」から「太平洋戦争」までの「戦跡」は、この目で事実を見て、歴史を確認するように心がけてきました。

日本人には、あまり知られていない、韓国仁川の租界跡

韓国側の日本語ガイドブックには、「1882 年「済物浦条約」により、世界に門戸を開いています」と書かれています。

それまでは、韓国は鎖国をしていました。

そのきっかけについてはガイドブックには書かれていません。

「山川日本近代史」鳥海靖緒 山川出版社(この本はぜひ読んでほしい)によると、

日本と韓国は、1876 年に「日朝修好条約(江華条約)」を結んでいます。

みんなが知っている通り、日本が開港したきっかけは「黒船来航」でアメリカから圧力をかけられたためです。

開港しなければ「戦争」と脅されたわけです。

日本はアメリカだけでなく、ロシアの南下を恐れていました。

日本開国の 20 年後、日本はペリーが日本に行ったこととまったく同じことを韓国に対して行っています。

軍事的圧力をかけて、開港を要求し、仁川港を開港させました。

この事実を、「仮令は、貴国のペリーが下田に来るごときの処置なり」

とアメリカ公使ビンガムに報告し理解を求めています。

ここから、日本の海外進出の歴史が始まります。

当時は、ヨーロッパのアジア植民地政策、ロシアの南下、アメリカの進出など、アジアは次第に植民地化されている時代でした。

もし、日本に「明治維新」が無ければ、アジアはどうなっていたでしょうか。

「明治維新」で急速な近代化を成し遂げ軍備を強化した日本は、韓国進出をきっかけに、「日清戦争」「日露戦争」「太平洋戦争」へと向かって行くのです。

午後は、仁川港の清と日本の「租界跡」を見学に向かう。

「租界」とは、都市の一角に設定され、治外法権や行政権を持つ外国人居留地

「租借地」とは、条約によって借りている土地です。

99年などの長期間で、総督や行政長官が派遣され、行政権、立法権、司法権を含め統治権は借りた国にある。

体裁はいいが「植民地」と変わりません。

香港やマカオがそれに当たります。

仁川空港から306のバスに乗れとガイドブックに書いてあったので来たバスに乗る



乗ったバスは間違えていないが、とんでもない田舎まで行ってしまった。

バスドライバーはなかなか降りない私を見て「いったいどこまで行くんだ？」と下手な英語で聞いてくるから、

「仁川駅かチャイナタウンだ」と下手な英語で答える。

下手な英語同士の方がよく通じる。

「ここで降りて別のバスに乗れ！」といわれ、とんでもない田舎の港街に降ろされる。

仕方ないから、地元の人に聞いてみると、306のバスに乗れという。

306のバスに乗って「チャイナタウン」というと「OK」と答える。

いくら時間が経っても田舎を走るだけで、チャイナタウンらしきものは見えてこない。

よく見ると、仁川空港が見えてくる。

おいおい

「空港で降りて出直せという意味なのか」と思い降りようとする、「そのまま乗っている」という。

意味が分からない



後で分かったことだが、私は「乗場」ではなく「降り場」でバスに乗っていたらしい。

仁川駅、チャイナタウンに行くには、1階の2Aで306のバスに乗る
2階の「降り場」から乗る306は、なんとかピーチと確かに書いてある。
バスのルートは「8の字」になっているようだ。

同じルートを回っているのではない。

目的地に着くまでに3時間もかかってしまった。

こんな元日本人街が残っている

あまり知られていないの、時間があつたら紹介します

仁川租界跡を歩いてみました。

「租界」とは治外法権を持った外国人居住地

仁川空港 1階306のバスに乗れば、1時間弱で仁川駅に到着します。

鉄道の仁川駅からスタート

日本が作った鉄道です。

ここのインフォメーションで日本語ガイドをもらい、地図を見て散策する。



目の前は「チャイナタウン」の門
中国人観光客でにぎわっている



「今川焼？」

これは、日本の今川焼のスタイルとまったく同じ

「じゃじゃ麺ミュージアム」は閉まっていた



「中国人居住地」と「日本人居住地」の境目の階段



日本式と中国式の「灯籠」が置かれている(右が日本式)

日本側の木は抜かれている

当時も咲いていた「桜の花」桜は歴史を見続けていた。



日本人家屋街

日本人観光客は誰もいない



中国側は繁栄し、日本側は衰退している。

日本領事館跡

現在は建て替えられている



旧日本第一銀行 仁川支店



中は博物館になっている。入場無料、韓国語と英語の説明のみ
当時の郵便ポスト
少し多めの寄付をした

当時の風景



手前「日本第十八銀行」と奥は「日本第五八銀行」
ここも博物館になっている



当時の仁川港のジオラマ

ここも、無料だが、寄付はしておいた
「日本郵船 仁川支店」改装中



「韓流ブーム」を当てに、改装、整備がされているようだが、日本人は一人も見かけなかった。
日系の飲食店やショップはない。
このままだと、「日本人街跡」は、テーマが変わってなくなってしまうかもしれない。

機会があったら、ぜひ訪れてみてください。

中国資本が進出して、レストランなどの建物が建てられている。

中国を象徴する「龍の門」

沖縄の駅前の街宣車が言っていた、沖縄に「龍の柱を建てるな」と叫んでいたことを思い出す。

また、南京のあの博物館に書かれていた結論、「国が弱まれば、侵略される」という言葉

歴史を学んで思ったこと

韓国の大統領は、日本の例の問題を、ヨーロッパやアメリカなど戦勝国を回って訴えている。

彼女がよく口にしている「歴史の正しい認識」「1000年忘れない」という言葉。

日本人としたら、気分の良いものではないが、その裏の意味する事をよく考えてみると、

私は、彼女はそれほど愚かな人ではないと思っている。

欧米人で歴史を勉強している人であれば、「なぜ、今さら」と苦笑いをするしかありません。

「ポンペイの歴史研究」でも書きましたが、2000年以上前から、「戦争で負けることは、奴隷、娼婦にさせられることを意味しています」

勿論、こんなことが起きてはいけません。

「なぜ、アジアで戦争が起きたのか？」

敗戦国である日本は、それをはっきり言えない。

彼女の「歴史の正しい認識」「1000年忘れない」の言葉の裏には、日本だけでなく、ヨーロッパ諸国、アメリカがアジア、アフリカ、南米で行ってきた植民地政策を、「太平洋戦争終結70年」を機会に、それを認識し反省してほしいという「平和への願い」が込められているような気がします。

私はそう信じています。

終戦70年を機会に、各自が歴史の勉強をしましょう。